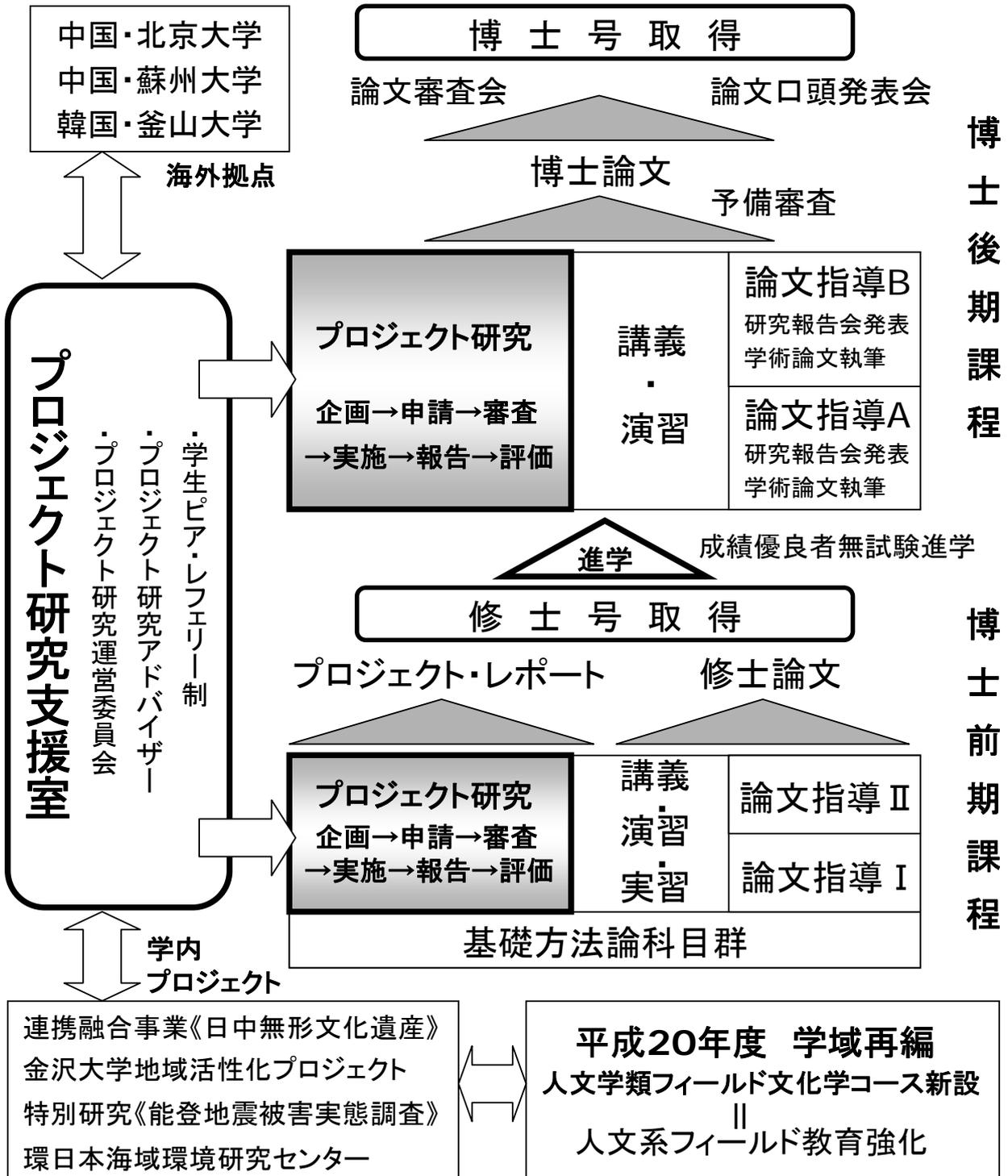


教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	金沢大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	プロジェクト研究を通じた自立的研究者養成		
主たる研究科・専攻名	人間社会環境研究科人間文化専攻、人間社会環境学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 鏡味治也		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>本プログラムは、プロジェクト研究を中核とする研究実践指導体制を整備して、学生の課題発見・企画立案・研究遂行・他者評価等の各種能力を鍛えることを目的とする。本研究科はこれまで論文指導の充実に努めて学位授与率の向上を果たしてきたが、それに加え、今後学生が研究者・教育者・公務員・企業人などとして活躍するために必須となるプロジェクト・マネジメント能力を培う。</p> <p>具体的措置としては、後期課程ですでに設置済みの「プロジェクト研究」科目を前期課程でも開講し、単位化する。プロジェクト研究は将来的には文献研究・実験研究へも拡大する予定であるが、本プログラムでは指導体制充実の第一期としてフィールド研究分野を重点的に整備する。前・後期課程それぞれに学生が申請する競争的研究経費を設け、学生の研究面での経済的支援を行うとともに、支援対象となった学生の指導担当教員の実地指導旅費等を保証する。現代的課題に即応した研究を積極的に推進するため、年度ごとに時限付き課題を設定した特別枠も設ける。プログラム全体の運営に当たる組織として研究科内にプロジェクト研究支援室を設け、教員からなるプロジェクト研究運営委員会が申請の審査や成果の評価を行うとともに、フィールド研究で学位を取得した若手研究者をプロジェクト研究アドバイザーとして雇用し、フィールド研究での調査地と大学の連携構築をはじめとする学生支援に当たらせる。また、申請審査および成果評価に学生を参加させるピア・レフェリー制を導入し、学生の他者評価やプレゼンテーション能力の向上を図る。</p> <p>原則として前期課程学生は2年次に、後期課程学生は1・2年次にプロジェクト研究を実施する。研究終了後は報告会での発表とプロジェクト・レポートの執筆を義務づける。前期課程学生についてはプロジェクト・レポートを修士論文に代えることを認める。優れたプロジェクト・レポートを提出した学生については後期課程への無試験進学を認め、5年一貫教育の充実を図る。</p> <p>フィールド研究の主対象地域としては、日本の北陸地域と中国を中心とする東アジアを設定する。この措置は、本研究科の教員や学生の研究傾向に配慮しただけではなく、本学の環日本海域に関する21世紀COEプログラムや日中連携融合事業により東アジア諸国に設置した海外リエゾン・オフィス、および学内設置の環日本海域環境研究センターの活用を意図したものである。</p>			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

プロジェクト研究を通じた自立的研究者養成



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、プロジェクト研究を中核とした研究実践指導体制を整備して、院生自身が課題を発見・立案し、研究を遂行する能力を鍛えようとする教育システムは評価できる。また、海外リエゾン・オフィスや環日本海環境研究センターの活用など、全学的な支援体制も整っており、今後の展開が期待できる。

しかしながら、教育プログラムの実現に向けては、教員の負担に期待するところが大きいため、運用面での組織的な工夫が必要である。